

※文字の大きさは MS ゴシック / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー名：北海道函館西高等学校

活動名：探究懇話会から始まる社会との共創～探究活動を円滑にするフラットな研修のしくみ

解決すべき課題：校外で探究活動を行おうとする生徒の取り組み支援と先生の外部伴走支援の
マインドづくり

○探究先進地域の高校に配置されている「探究（高校魅力化）コーディネーター」の配置がないため、コーディネートできる校内外の人材を増やす。

○先生たちのコーディネート能力の資質向上を目指す。

○函館市西部地区にある唯一の高校であり、学校の教育活動全体を通じて「函館に住み、まちの未来を考え、支える人」または「函館以外に居住し、函館の応援団として活躍する人」の育成を目指す「探究活動」と「グローバル人材の育成」と「芸術・スポーツの西高」という高校の魅力化を支える人材を育てるためのモデルとなるまちづくり活動に造詣が深い地域人材との共創のきっかけを作る。

目標・方針：懇話会から地域へ、臨時懇話会から社会へ出る生徒を伴走支援できる先生の増加・地域の人材を発掘し、校内で月に 1 度程度放課後に行っている「探究懇話会」という街の有識者（探究のハブとなる人材）の懇話会を行う。西高の生徒だけでなく、西高の教職員向けには「校内研修」と位置付けている。西高に在籍している PTA や道南地域の高校も参加可能で、オンライン対応もしている。参加者がフラットにグループワークなどの活動を行うことで、より探究の試案などを打ち明けやすい関係性づくりを目指す。

活動内容：



① 探究懇話会…基本的に函館地域でまちづくりの活動に関わっている講師との懇話会を通じて関係作りをし、街に出る準備をする。教職員も講師と名刺交換をし、ゼミの生徒が外で活動する場合のハブとなる準備をし、コーディネートできる資質を養う。



② 臨時探究懇話会…基本的に函館地域外の講師との懇話会を通じ、幅広い諸事象を知り、企業等と繋がるためのマインドづくりを目指す。

③ 社会でのアクション支援…懇話会等で知り合い、支援してくれる地域の人とつながり、実際に社会でイベントやワークショップを開催するなど、社会で活動する支援をする先生、西高生の活動を支援してくれる街の理解者が増える。



（左から）学校敷地侵入禁止の啓発活動としての写真コンテスト・企業協賛を受けた町会イベント・市主催の共創サロンの様子・海ごみのアップサイクルのリレーショナルアート作りイベント

取組の過程：校内から校外へ探究の活動を遷移させる循環型支援に

① 懇話会から社会で活動したくなる生徒を増やす。

探究懇話会で生徒たちが「校外でやりたいこと」を発表する機会を設け、生徒たちの活動趣旨に対してのアドバイスや支援、つながるべき大人の紹介をしてもらうなど、学校の教員以外がハブとなる機会を作ることで、生徒たちの校外への「越境活動」を後押しする。

② 講師が西高のサポーターとなることで共創の仕組みが増える。

西高の探究を軸とした教育活動を懇話会の外部講師に理解していただき、必要な場合の支援を了承していただく。実際に生徒が校外でのイベントを企画したりした場合、必要な場合支援をしていただく。

③ 生徒たちの探究活動を知ってもらうため、外部での発表機会を増やす。

生徒たちが外部で発表する機会を設け、街場の人たちに聞いていただく機会を同時に創出し、探究活動の支援や協賛、後援などが得られやすいように支援する。

④ 教職員の参加を「校内研修」と位置付け、探究活動に校外で協力してくれる大人との社会関係資本を豊かにする。また、探究活動の活動支援の類型パターンを示すことで、先生たちの伴走支援の活動を結果的に支援できるような仕組みを作る。

⑤ 他校や PTA に向けても門戸を広げ、オンライン配信もすることで、地域の探究活動に理解のある外部人材の情報を共有する。

活動の成果：懇話会から始まり街で共創イベント・共創アートなどの活動をする生徒が増加

懇話会参加者たちが、講師、参加者と街場で PBL 型のイベントに参加したり、自分たちでイベントやワークショッププロジェクトを立ち上げたりして、校外で生徒が主体となって一般参加者が参加・活動・共創する文化を創り上げた。また、参加者以外でも、小中学校への出前授業の交渉・実施など、生徒主導による校外で探究で得た知見を元に啓発活動、共創イベント、共同開発などを主体的に行う生徒が増加した。

① PBL 型の成果→街場で学生が作る雑誌 each のプロジェクトに参加 2 名・街場で開催された StartupBaseU18 に参加 1 名

② 講師由来企画への参加→空き店舗の装飾プロジェクト発案・実施 3 回・地域への芸術祭参加（13 人）

③ 生徒主導のイベント共創→イベント開催 3 回・ワークショップ開催 3 回

④ 街のプレゼン大会等への参加→50 名超

⑤ 臨時探究懇話会の開催→年度当初～（函館に地縁のある有識者等で申し出てくださった方を対象に設定・今年度はすでに 4 回実施）

⑥ 探究懇話会の校外開催→11 月～（校外支援者等から申し出があった場合、かつ街場での参加者を募りたい場合設定）

⑦ マスコミからの探究活動、または探究活動に係る取材の増加（今年度 4 月から新聞 30 以上掲載・テレビ地上波 3 回・テレビ全国ネット 7 回・ネットテレビ 2 回）

